２０２４年度

湘南白百合学園中学校
入　学　試　験　問　題

国　　　　語

45分

受験番号		氏　名	

○受験番号・氏名は解答用紙にも書くこと。

＊答えは解答用紙に書きなさい。

一　後の問いに答えなさい。

問一　次の――線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

① デンチュウを見上げる。　② 植物のメが出る。　③ ハラが立つような出来事。

④ 三人目のマゴが生まれる。　⑤ チョウカンを読む。

⑥ お年寄りを敬う。　⑦ 地道な努力が勝利に導く。　⑧ 貴族の館を見学する。

⑨ 養蚕が盛んな村を訪れる。　⑩ 実験が成功に至る。

問二　次の①～⑥は世界のことわざです。これらのことわざは、日本のどのことわざの意味に近いですか。最もふさわしいものを後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 〈フランス〉 犬は猫（ねこ）を生まない：Les chiens ne font pas des chats.

② 〈イタリア〉 天は明るい人を助ける：Gente allegra il ciel l'aiuta.

③ 〈スペイン・メキシコ〉 空中に城を建てる：Hacer castillos en el aire.

④〈インドネシア〉命が髪（かみ）の毛一本にかかっている：Jiwa bergantung di ujung rambut.

⑤〈オランダ〉治療（ちりょう）より予防：Voorkomen is beter dan genezen.

⑥〈ドイツ〉馬に乗りながら馬を探す：Er sitzt auf dem Pferde und sucht es.

ア　風前の灯（ともしび）

イ　灯台もと暗し

ウ　絵に描（か）いた餅（もち）

エ　転ばぬ先の杖（つえ）

オ　笑う門（かど）には福来る

カ　蛙（かえる）の子は蛙

（日本ことわざ文化学会『世界ことわざ比較辞典』を参考）

問三　次の枠内の文章、**資料1**、**資料2**について、後の（1）～（4）の問いにそれぞれ答えなさい。

　２０２３年１２月、「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されて１０周年でした。 農林水産省のサイトによると、和食の特徴は **資料１** にある通りでした。また、令和５年に同省から発表された **資料２** によると、「和食文化」ユネスコ登録認知度は平成２７年度に比べて、令和元年では大幅に【　①　】しました。その傾向は令和４年度まで続いていて、「知っている」の割合は全体の【　②　】割台半ばに留まりました。一方、外国の方に紹介したい「和食文化」の有無については、「ある」の割合が、令和元年度に比べて、令和４年度には大幅に【　③　】しました。なお、同調査によると、外国の方に紹介したい「和食」として、「寿司」が最も多く、次いで「味噌汁／豚汁」、「だし」、「天ぷら」、「ご飯／おにぎり」が上位５つでした。

資料１

（１）多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重

日本の国土は南北に長く、海、山、里と表情豊かな自然が広がっているため、各地で地域に根差した多様な食材が用いられています。〈　A　〉

（２）健康的な食生活を支える栄養バランス

一汁三【　④　】を基本とする日本の食事スタイルは理想的な栄養バランスと言われています。〈　B　〉

（３）自然の美しさや季節の移ろいの表現

食事の場で、自然の美しさや四季の移ろいを表現することも特徴のひとつです。〈　C　〉

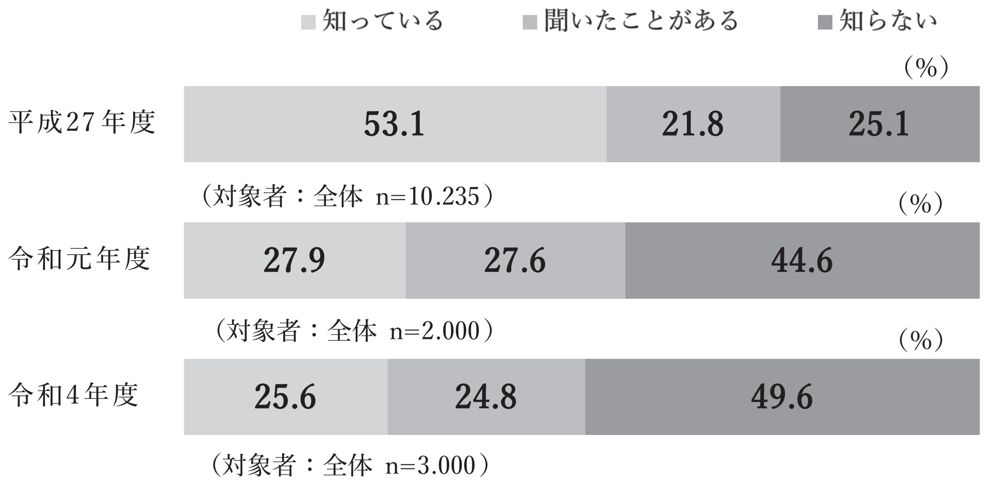
（４）正月などの年中行事との密接な関わり

日本の食文化は、年中行事と密接に関わって育まれてきました。〈　D　〉

（農林水産省 Web サイトより
https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/ich/index.html）

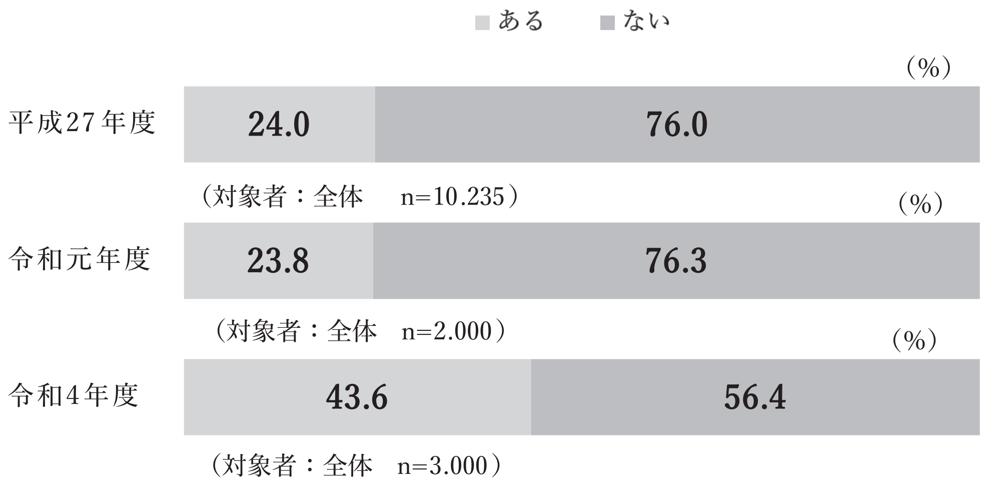
資料２

【「和食文化」のユネスコ登録認知】



（農林水産省（https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/culture/attach/pdf/chousa-1.pdf）を加工して作成）

【外国の方に紹介したい「和食文化」の有無】



（農林水産省（https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/culture/attach/pdf/chousa-1.pdf）を加工して作成）

（1）**資料1**の〈Ａ〉～〈Ｄ〉に入る文の組み合わせとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

1　また、「うま味」を上手に使うことによって動物性油脂（ゆし）の少ない食生活を実現しており、日本人の長寿（ちょうじゅ）や肥満防止に役立っています。
2　季節の花や葉などで料理を飾（かざ）りつけたり、季節に合った調度品や器を利用したりして、季節感を楽しみます。
3　自然の恵（めぐ）みである「食」を分け合い、食の時間を共にすることで、家族や地域の絆（きずな）を深めてきました。
4　また、素材の味わいを活かす調理技術・調理道具が発達しています。

ア　Ａ―１　Ｂ―２　Ｃ―４　Ｄ―３　　イ　Ａ―３　Ｂ―１　Ｃ―２　Ｄ―４
ウ　Ａ―４　Ｂ―２　Ｃ―１　Ｄ―３　　エ　Ａ―１　Ｂ―３　Ｃ―２　Ｄ―４
オ　Ａ―４　Ｂ―１　Ｃ―２　Ｄ―３

（2）**資料1**の「一汁三【④】」の【④】に入る漢字と同じ漢字が含（ふく）まれるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　サイ度、同じ問題を解く。　　イ　犬に吠（ほ）えられてサイ難だった。
ウ　友達と山サイ採りを楽しんだ。　　エ　小さなサイは気にしない。

（3）**資料2**を見て、【①】、【③】に当てはまる言葉として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　①増加　③増加　　イ　①増加　③減少
ウ　①減少　③減少　　エ　①減少　③増加

（4）【②】に入る数字を次から選び、記号で答えなさい。

ア　１　　イ　２　　ウ　３　　エ　４

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、問いに字数指定がある場合には、句読点なども一字分に数えます。

ブレーメン・ツアーズは、依頼者の走馬灯（この文章では、死ぬ間際に見る思い出や記憶のこと）を描くための旅を企画する特殊な会社である。社長や葛城さんは、人の走馬灯をのぞいたり描きかえたりできる力を持っている。本文は、社長が高校生の遥香に仕事内容について語っている場面である。

社長が例に挙げてくれたのは、*1ナンユウくんのお母さんにビデオ通話で話していた、心臓外科の名医の墓参りのツアーだった。

「守秘義務で名前は明かせないから……」

社長は少し考えて、その名医が「神の手」と呼ばれていたので、「神手さんにするか」と言った。そのセンス、わたしとはちょっと違うかも。

でも、［Ⅰ］、神手さんの話だ。

世界的に注目される難しい手術を何度も成功させた神手さんだけど、［Ⅱ］、すべての手術がうまくいったわけではない。

「名医の宿命だ。神手さんのもとには、ほかの医者が［Ａ］を投げた患者ばかり、藁にもすがる思いで、*2一縷の望みを託して来るわけだ。難しい手術ばかりで、分は悪い。だめで元々だ。患者も家族もそれは承知のはずなんだが、実際に亡くなってしまうと、やっぱり、医者のせいになるんだ」

遺族からじかに抗議されたこともある。でも、それ以上に、感情を抑えた声で「ありがとうございました」と挨拶されるときのほうがキツかった。

もっとも、現役の頃には「神の手」のプライドもある。一人の患者の命を救えなくても、まだ次の患者が待っている。しかたないだろう、こっちもベストは尽くしたんだ、と割り切って前に進むしかなかった。

［Ⅲ］、歳をとって現役を退くと、手術に失敗したときの夢をしょっちゅう見て、うなされるようになった。昼間でも、遺族に頭を下げる場面が*3フラッシュバックする。

「そんなことがしばらく続いて、不安になって、ウチに来たんだ」

自分の走馬灯には、失敗した手術のことや、亡くなった患者や、その遺族の顔が描かれているのではないか——。

葛城さんが記憶を覗(のぞ)いた。神手さんの不安は当たっていた。手術台で息を引き取った患者や、頭を下げる神手さんに*4悄然(しょうぜん)としたまま挨拶する遺族の姿が、いくつも、色つきで記憶に残っていたのだ。

消すことは簡単だった。オフィスの一室で、相応の時間をかければ、リクエストには応えられる。でも、葛城さんは、神手さんが救えなかった患者さんの墓参りのツアーを組んだ。

「それはそうだろう？　ウチは旅行会社だ。お客さんに旅をしてもらうのが仕事なんだから」

「……旅をすると、なにが違うんですか？」

社長は「その前に、ちょっと遠回りさせてくれ」と、デジタルのデータと人間の記憶の違いを語った。

デジタルのデータは時間がたっても変わらない。でも、人間の記憶は時間がたてば薄(うす)れていく。鮮(あざ)やかだったものがぼんやりとして、前後の脈絡(みゃくらく)が読み取れなくなって、そのまま消えてしまうことだってある。

わたしが「劣化(れっか)しますよね」と相槌(あいづち)を打つと、社長は苦笑交じりにかぶりを振(ふ)って「私の考えは逆なんだ」と言う。

「……逆って？」

「記憶が薄れることや色褪(あ)せることは、必ずしもマイナスじゃない。いつまでも細かく覚えていたくないこともあるし、忘れたいことだってある。そうだろう？」

「それは……はい……わかります」

「なんでもかんでも、つい昨日のことのようにしっかり覚えていなくちゃいけないのは、かえってつらいぞ。川の石が水に削(けず)られてまるくなるのと同じだ。うまいぐあいに磨(す)り減って、まるくなってくれたおかげで背負いやすくなる思い出だってあるんだ」

そうかもしれない、確かに。

「忘れるっていうのは、神さまが人間に授けてくれた、大切な力かもしれないよな」

大げさな言い方のはずなのに、社長の顔と声の力なのだろうか、不思議とすんなりと耳に入って、胸に染(し)みた。

そこまでが——デジタルとの違い。

「でもな」と社長は続けた。

「思い出は、富士山と同じだ。登ってるときには、富士山の形はわからない。すぐ麓にいても、全体の姿はわからない。富士山の、あの形と高さを実感するには、だいぶ離れないといけないんだ」

　思い出も、離れて振り返ると、見え方が違ってくる。

「幸せな思い出のはずだったのに、何十年後に振り返ると色褪せていたり、二度と思いだしたくなかったはずの日々が、むしょうに愛おしく思えてきたりもするんだ」

　だから、お客さんに旅をしてもらう。そのうえで、あらためて走馬灯の絵を決める。それが、ブレーメン・ツアーズの仕事の流儀だった。

　時間はかかる。手間暇もかかる。最初に「これを消して、あれを描き足して」と注文されたことをそのままやっていけば、仕事は早くすむ。そのほうが会社の経営としてもずっと率がいい。

「でも、私は、そういうことはしたくないんだ。お客さんに、もう一度、人生の記憶をたどり直してから、あらためて決めてほしいんだ。走馬灯から消したい思い出は、ほんとうに消すべきなのか、残したい思い出は、ほんとうに残すに価するものなのか……」

　社長はそこで言葉を切って、①「けっこう変わるんだぞ」と笑った。

　旅を終えたあと、最初のオーダーでは消すはずだった思い出が「やっぱり残してほしい」となることがある。逆に、走馬灯に描き入れてほしかった思い出を「やっぱり、やめておきます」と断ることもある。

「私は、人間には三つの力があると思う」

　一つめは、記憶する力。でも、記憶していても、それはデジタルとは違って、薄れたりぼやけたりする。だから、二つめは、忘れる力になる。

　そして、三つめ――。

「なつかしむ力だ」

　社長は虚空を見つめて微笑んだ。まさに遠い昔をなつかしむ顔になって、続けた。

「私は思うんだ、遥香さん。『なつかしい』というのは、あんがいと深い感情だぞ」

　あの頃に戻りたいから、なつかしい。あの頃にはもう戻れないからこそ、なつかしい。あの頃の、あの出来事を、全面的に肯定する

から、なつかしい。苦い後悔(こうかい)があるからこそ、なつかしい。満面の笑みで、なつかしい。泣きだしそうに顔をゆがめて、なつかしい。
「旅をして、自分の人生をなつかしんでほしい。そこから、最後に、走馬灯に残す絵を決めてほしい。私はそう考えているんだ」
　心臓外科医の神手さんも、自分が助けられなかった患者さんにまつわる記憶はすべて走馬灯から消してほしい、と願っていた。
でも、葛城さんは「亡くなった患者さんのお墓参りに出かけませんか」と提案して、遺族との再会もセッティングした。神手さんは墓参を続け、遺族との再会を繰(く)り返し……記憶は少しずつ、形を変えていったのだ。
　遺族の対応は、さまざまだった。恐縮(きょうしゅく)する人や感謝する人がいる一方で、線香を手向(たむ)ける神手さんの背中を恨(うら)めしそうににらむ人もいたし、当時のことを蒸し返して怒(おこ)りだす人もいた。お墓参りのあとで会食の席まで設けてくれた遺族がいたかと思えば、神手さんの挨拶すら拒(こば)んで、お墓の場所をどうしても教えてくれなかった遺族もいた。
　半年がかりで二十人以上の墓参りをした。ようやく折り返しを過ぎたところだという。ツアーの日程はすべて葛城さんが決める。遺族への事前連絡もして、お墓参りができる場合はすべて――遺族が歓迎(かんげい)しているかどうかにかかわらず、神手さんに出かけてもらうことにしている。
「恨まれているのがわかっていても、案内するんですか？」
「ああ……②墓参りを拒否された場合も、とにかくぜんぶ、そのまま伝えてる」
「神手さんがショックを受けたり、傷ついたりしても？」
「もちろん」
「記憶、やっぱり変わっていくんですか？」
「ああ、変わる」
「いいほうに？」
「そうなるときもあれば、逆もある」
　神手さん自身の予想とはまったく違う対応をされることが、何度もあった。
「十年前に裁判沙汰(ざた)になりそうなほど揉(も)めた遺族が温かく迎(むか)えてくれたり、逆に、二十年後になって初めて恨みつらみをぶつけてくる

遺族がいたり……いろいろあったらしい」

神手さんは、むしろ、厳しく対応した遺族と会ったあとのほうが、すっきりしていた。そして、③旅を続けるにつれて、走馬灯に描かれる絵は、どんどん幸せに満ちたものになっていったのだ。

走馬灯の絵師の仕事は、自分が絵を描き直すことだけではない。むしろ、それは最後の最後の手段だった。

「そんなことをしなくてすめば、それに越(こ)したことはない。一番いいのは我々がなにもしなくても、走馬灯が幸せなものに変わっていくことだ」

「そんなにすぐに変わるものなんですか？」

「変わるさ。だから、人生は面白いんだ」

たとえば、と社長は続けた。

「遥香さんのような高校生にとって、大学受験は大きいよな。第一志望の大学に受かれば大事な喜びの場面として走馬灯に描かれるだろうし、落ちたら落ちたで、悲しくて悔(くや)しい場面として走馬灯に残る」

でも、三十歳(さい)を過ぎて、四十歳を過ぎて、五十歳を過ぎて……長く生きていけば、大学受験の結果なんてどうでもよくなる。④走馬灯から消えてしまう。それでいい。十八歳のときの失敗を一生ひきずる人生は哀(かな)しいし、十八歳のときの成功に一生すがる人生は、もっと哀しくて、寂(さび)しくて、むなしい。

「なんか、わかるような気がします」

「だろう？」

社長はにやりと笑って、「人生をたどり直す旅をすることは、ほんとうに走馬灯に描くべき絵を選び直すことなんだよ」と言った。

（重松清『はるか、ブレーメン』）

（注）＊1　ナンユウくん……遥香の友人。
＊2　一縷の望み……細い糸一本のように今にも絶えそうな、かすかな望み。
＊3　フラッシュバック……過去の強い嫌な記憶が突然鮮明に思い出されること。
＊4　悄然……うちしおれているさま。

問一 [Ⅰ]～[Ⅲ]に入る語句として最も ふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア もちろん
イ ところが
ウ そのうえ
エ とにかく

問二 [A]に入る語句として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア サイ　イ サキ　ウ サジ　エ サマ

問三 ――線部①「『けっこう変わるんだぞ』と笑った」ときの社長の気持ちとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 依頼してくるお客さんの多くが思い直すからこそ、会社が成り立つとありがたがっている。
イ 思い出のとらえ方が変わるお客さんを見てきて、人の記憶など、はかないものだと笑い飛ばしている。
ウ 何人ものお客さんと接し、人間の身勝手さを痛感させられ、あきれている。
エ お客さんに人生を振り返ってもらうという会社の流儀に自信を持っている。

問四 ――線部②「墓参りを拒否された場合も、とにかくぜんぶ、そのまま伝えてる」とありますが、その理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 伝えないと神手さんが勝手にお墓参りをしてしまうかもしれないから。

イ　遺族の怒りに共感し、代わりに神手さんに伝えないと気持ちが収まらなかったから。
ウ　伝えることと伝えないことの選別をする手間を省くことで仕事を効率化したいから。
エ　厳しい対応をされるということも含めて全てが神手さんの人生であるから。

問五　――線部③「旅を続けるにつれて、走馬灯に描かれる絵は、どんどん幸せに満ちたものになっていったのだ」とありますが、その理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。
ア　苦い記憶が色褪せるくらいの素敵な記憶があったことを思い出すことができたから。
イ　神手さんが気づかないところで、葛城さんが走馬灯の絵を描き直していたから。
ウ　つらい過去にもきちんと向き合ったことで、自分の人生をなつかしむことができたから。
エ　お墓参りを終えるたびに、葛城さんが神手さんに対して前向きになれるような言葉をかけていたから。

問六　――線部④「走馬灯から消えてしまう。それでいい」とありますが、なぜですか。理由を「経験」という語を用いて、四十字以内で説明しなさい。

問七　══線部「ブレーメン・ツアーズの仕事の流儀」とありますが、なぜブレーメン・ツアーズはお客さんに旅をしてもらう方法をとっているのですか。人間の記憶の特徴(とくちょう)をふまえて、七十字以内で説明しなさい。

三　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。筆者は、ムラブリ語（タイやラオスの山岳地帯に住む少数民族の中で話されている言葉）の美しさに魅せられた日本の言語学者で、ムラブリ語はおそらく今世紀中には消えてしまうだろうと考えられています。［　］の部分は、筆者がこの文章を書く際に参考とした資料であり、また、【　】の部分は、出題のために本校が参考としてつけ加えたものです。問いに字数指定がある場合には、句読点なども一字分に数えます。

「上」は悪く、「下」は良い？

最近の研究でムラブリ語が注目されている分野のひとつは、感情表現だ。

感情表現とひと口に言っても、その定義は難しい。「感情」という語や表現は言語によって対応するものがまちまちだからだ。たとえば、トルコ語は「感情」に相当する語彙が３つある［Smith & Smith 1995］。反対に、ガーナなどで話されるダバニ語は、「感情」を意味する語彙を持たないとされる［Dzokoto & Okazaki 2006］。ムラブリ語も同じで、「感情」を表す語がなく、タイ語を使って表現するしかない。

このような状況で、どの言語にもあてはまる「感情」を定義するのは難しく、哲学的な問いにまで発展するので、ここでは深く立ち入らないことにして、常識的な意味で「感情」を用いることにする。

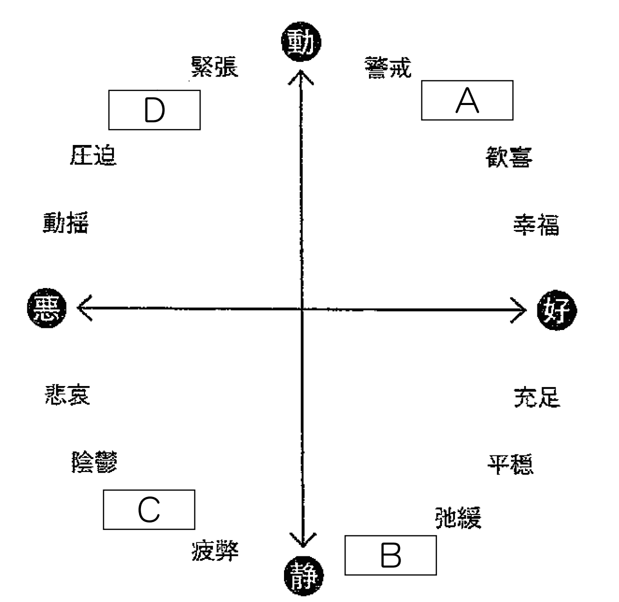
感情を表す表現は、大きく分けて２つある。ひとつは語彙だ。日本語で言うと「うれしい」とか「悲しい」などになる。もうひとつは*1迂言的な表現だ。「心が躍る」とか「気分が沈む」などがそうだ。ほとんどの言語で両方の表現方法を用いることが知られている。ムラブリ語もそうだ。

感情表現は、とくに*2翻訳が難しい。日本語の「幸せ」と英語の「happy」【ハッピー】のニュアンスが異なることからも、その難しさを想像できると思う。だから、研究者は感情表現の意味を「好／悪」と「動／静」の２軸を用いて、平面上に*3マッピングすることで表現する［Russel & Ridgeway 1983］。

左の①図の右上が「Ⅰ」、右下が「Ⅱ」、左上が「Ⅲ」、そして左下が「Ⅳ」の領域だ。

たとえば、日本語の「幸せ」は*4ポジティブで、英語の〝happy〟と共通するが、英語よりも少し静的なので下に位置づけられる。

このような違いは、*5逐語訳では見落とされがちだが、図示することで、細かいニュアンスの違いを座標の位置によって表現することができる。



[Russel & Ridgeway 1983]を基に、筆者訳。

(図の注)
*歓喜—たいそう喜ぶこと。
*充足—満ちたりること。
*平穏—おだやかなこと。
*弛緩—ゆるむこと。
*疲弊—つかれること。
*陰鬱—うっとうしい感じがすること。
*悲哀—悲しくあわれなこと。
*動揺—気持ちが不安定になること。
*圧迫—おさえつけること。
*緊張—張りつめてゆるみのないこと。

ここで注目したいのが、ムラブリ語の迂言的な感情表現だ。②ムラブリ語は「クロル（心）」を用いて感情を表すのだが、そのなかでも「クロルクン（心が上がる）」と「クロルジュール（心が下がる）」という感情表現がおもしろい。

直感的には「心が上がる」はポジティブな意味で、「心が下がる」は*6ネガティブな意味に聞こえるだろう。しかし、実際は逆で、「心が上がる」といえば「悲しい」とか「怒り」を表し、「心が下がる」は「うれしい」とか「楽しい」という意味を表す［Wnuk &

Ito 2021]。

*7認知言語学という分野では、世界の言語に見られる*8普遍的な特徴として、「上がる」ことは「よい」こと、つまり〝Up is GOOD〟【アップ イズ グッド（上がることはよいことだ）】が主張されている。これは*9概念メタファーと呼ばれ、とくに〝Up is GOOD〟は世界中で見つかるため、もっとも普遍的な概念メタファーのひとつと考えられている。しかし、ムラブリ語の「心が上がる」はネガティブな感情を表すため、普遍的だと主張される〝Up is GOOD〟の例外となり、とても珍しい。

あまりにもよく見られる〝Up is GOOD〟だから、ムラブリ語の分析が誤りである可能性もある。ぼくも「心が上がる／下がる」は上下運動ではなく、別の意味ではないかとも考えた。しかし、「心が上がる／下がる」というときのジェスチャーを見ると、[V]動かしている。やはり、「心臓の辺りが上がる／下がる」という感覚経験にこの表現の源があるようだ。

感情の評価軸は「好／悪」と「動／静」だったが、「心が上がる」は「好／悪」というより、「動／静」に左右されるのではないか、と考える人もいるかもしれない。ぼくも初めはそう考えた。しかし、ぼくたちのおこなった実験によれば、「心が上がる／下がる」は「動／静」に関係なく、「好／悪」を表すのだ。

結果として、動的か静的かにかかわらず、心理学的に良い感情に結びつくものは「心が下がる」、悪い感情に結びつくものは「心が上がる」と表すことから、ムラブリの感性には、〝UP is UNHAPPY〟【アップ イズ アンハッピー（上がることは不幸せだ）】と〝DOWN is HAPPY〟【ダウン イズ ハッピー（下がることは幸せだ）】の概念メタファーがあると言えるかもしれない。

また、ムラブリ語には「興奮」などに相当する語がない。狩りや性交、祭りなどで感じる感情は、ぼくたちからすれば「興奮」と呼べるものだろう。しかし、ムラブリはそれらの感情を言葉で表すことをしない。「狩りに行くときの感情はなんという？」と質問しても、ぼくの意図がよくわからないようだった。あたかも「ジャッククェール（狩りに行く）」という言葉に、行為も感情もひっくるめて表現されていると言わんばかりだ。

ムラブリ語には「感情」も「興奮」もない。ムラブリが行為から感情を分離する感性がないとも捉えられる。「心が上がる／下がる」も、ある種の身体的な行為に近い感覚として見るべきなのかもしれない。

これはムラブリの感性を紐解く大きなヒントになる。感情は直接観察することができない。しかし、ムラブリ語という体系を通して、彼らの感じている世界を想像することはできるかもしれないのだ。

ムラブリの幸福観

そもそも、ムラブリは自分の感情を表すことがほとんどない。森に生きていた時代、彼らは他の民族との接触をできるだけ避けてきた。森に息を潜めて暮らすなかで、必然的に感情を表に出すことを慎むようになったのかもしれない。実際、まだ森の中で遊動生活しているラオスのムラブリは、タイのムラブリに比べて表情がずっと乏しく見えた。大きな瞳は黒く深く、一見なにを考えているかわからない感じがして、少し怖いと感じることもあった。

こんなエピソードがある。教員時代に大学の学生をムラブリの村に連れて行ったときのことだ。旅行気分があったのだろう、学生たちが盛り上がって少しうるさい夜があった。そんなとき、1人のムラブリの男性がそろそろとぼくに近寄ってきて、こう言った。

「わたしは怒っているわけではない、本当だよ。けれどあなたたちが大声を出すと、村の子どもたちが怖がるかもしれない、怖がらないかもしれない。わたしは怒っているわけではないよ、本当だよ」

彼はぼくらに「静かにしてほしい」と伝えようとしているのは明らかだ。しかし、その言い方はとても繊細で、臆病にさえうつる。遠回し過ぎてなにが言いたいのかわからないほど、ささやかな訴えになっていた。繰り返し、「わたしは怒ってはいないよ、本当だよ」と挟みながら、言いたいことを伝えようとする光景は、ムラブリと暮らしていると珍しいものではない。ムラブリ同士でも、相手になにかを主張するときには、この言い回しをたびたび聞くことができる。ムラブリにとっては、なにかを主張したり感情を相手に向けることは、よっぽどの一大事であることが窺い知れる。

感情を表すのをよしとしないなら「心が上がる」、いわば感情が迫り上がってくる事態は、避けるべきこと、悪いことと捉える感性があっても不思議ではないだろう。

そんな感情を表に出さず、「心が下がる」ことをよいとするムラブリと長年一緒にいて、ぼく自身も感情の表し方が変化している。たとえば、友人と出かけていると、突然「怒ってる?」と確認されることが増えてきた。そんなときはたいてい真逆で、ぼくはむしろ機嫌よくすごしている。友人が言うには、「顔に表情がないから、怒ってるのかと思った」ということらしい。楽しいときに、ニコニコしていないと、怒っていると思われるようだ。ぼくはその期待とは反対に、気分がいいと口数が少なくなり、表情もぼーっとしてくるようになった。それが日本人の感性では「不機嫌」とみなされることがあるのだろう。ムラブリの「心が下がる」は、少し日本人の

感性から離れているかもしれない。ただ最近では「[*10]チルい」という言葉が日本で流行していた。「脱力した心地よさ」は、ムラブリの「心が下がる」に通じるところがあるように思える。森の中でタバコを吸うムラブリの姿は、最高に「チルい」。

ファイホム村でムラブリと住む[*11]ウドムさんから聞いたおもしろい話があるので紹介しよう。

タイのムラブリは現在いくつかの村に分かれて生活しているため、親族と離れて暮らすムラブリは多い。別の村に行くときは、歩いて行くのは遠いため、車の運転できるウドムさんに「会いに行きたいから連れてって欲しい」とお願いしてくることがよくあるそうだ。何度も何度もお願いされるので、ある日ウドムさんは仕事を休んで、車を出すことにした。ピックアップトラックの荷台に、老若男女、たくさんのムラブリを乗せて、3時間ほどかけて北にあるターワッ村へ遊びに行った。散々「会いたい会いたい」と言っていたから、さぞ喜ぶだろう、ウドムさんはそう思ったらしい。

ターワッ村は小さく、3つの家族だけが住んでいたから、その村総出で歓迎された。けれど、あれだけ会いたいと騒いでいたムラブリたちが、いざ再会してみると、ちっとも喜んでいるように見えない。少なくとも外側から見える仕草や言動からは、うれしそうに見えない。[*12]ハグなどの身体接触がないのは予想できたけれど、一緒にご飯を食べたりもしないし、会話が盛り上がる様子もない。ただ一緒に横にいて、顔も見ずに座っているだけ。1時間もしないうちに、会いに行きたいと言い出したムラブリ男性が「いつ帰るんだ」と言い出す始末。結局、その日は着いて1時間程度で帰ったそうな。

ウドムさんとしては、久しぶりの再会に喜ぶムラブリの姿を期待していたのだろう。けれど、ムラブリの感性は「DOWN is HAPPY」だ。自分の視界の端に会いたかった人がいる。その距離感で十分なのだろう。そのときの「心が下がる」気持ちを、わざわざ他人にもわかるように表に出す必要を感じない。それどころか、それを表に出すのは「心が上がる」こととして、慎んでいるのかもしれない。

③そう考えると、このエピソードも微笑ましく思えてくる（往復で6時間も運転したら違うかもしれないけれど）。

現代人の感性として、一緒に笑い、騒ぎ、抱き合って、ポジティブな感情を表現して認め合うことが幸せであり、感情は外に出してこそ、誰かに知られてこそ、より幸福を感じられると信じられているようだ。人々のSNSに対する情熱を見れば、それは明らかだ。仲間とはしゃいだときに感じる楽しさはぼくも知っている。けれど、それはひとつの信仰でしかない。感情のあり方や表現の仕方に、絶対の正解はない。ぼくらが「幸福」だとありがたがるものは、ごく最近にはじまった一時的な流行りに過ぎないのかもしれない。

写真を用いた調査で、*13タシーが「心が下がる」と言った写真に、丸太が積まれている写真があった。間違いだと思って聞き直したが、タシーはたしかに、丸太が積まれている写真を見て、「心が下がる」と言う。「いい木がたくさんある。よいことだ」という理由だった。

誰かといることでも、他人に認めてもらうことでもない幸福が、タシーを含め、ムラブリには見えているように思えてならない。そしてそれは、ぼくにとってもどこか懐かしさを感じられる類のものだ。森から雲が生まれている。風が穏やかに顔を撫でている。太陽が照って背を温めている。ムラブリ語の「心が下がる」瞬間は、学術的には*14異端とされるけれど、④人類史的にはごくありふれた心の風景なのかもしれない。

（伊藤雄馬『ムラブリ　文字も暦も持たない狩猟採集民から言語学者が教わったこと』）

（注）
＊1　迂言……まわりくどい言い方。
＊2　翻訳……ある言語で表現された文章の内容を、他の言語になおすこと。
＊3　マッピング……分布や配置を図示すること。
＊4　ポジティブ……前向き。
＊5　逐語訳……原文の一語一語に、忠実に訳すこと。
＊6　ネガティブ……後ろ向き。
＊7　認知言語学……言葉の様々な面を、知覚などの認知という角度から分析する言語学のこと。
＊8　普遍……全てのものにあてはまるさま。
＊9　概念メタファー……物事の捉え方の比喩。（例）「難しいこと」を「敵」と考えたり、「未来」は「前」、「過去」は「後ろ」と考えたりすること。
＊10　チルい……リラックスした様子やまったりと落ち着いた様子。
＊11　ウドムさん……アメリカ人の両親をもつが、タイで生まれ育ち、小さいころからムラブリと暮らしていたのでタイ語もムラブリ語も話すことができる男性。

＊12　ハグ……抱きしめること。
＊13　タシー……ムラブリの一人で、作者のムラブリ語の調査や研究に協力した男性。
＊14　異端……正統(せいとう)とは外れていること。

問一　[Ⅰ]～[Ⅳ]に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　Ⅰ　動的に好ましい　Ⅱ　静的に悪い　Ⅲ　動的に悪い　Ⅳ　静的に好ましい
イ　Ⅰ　静的に好ましい　Ⅱ　動的に好ましい　Ⅲ　動的に悪い　Ⅳ　静的に悪い
ウ　Ⅰ　動的に好ましい　Ⅱ　静的に好ましい　Ⅲ　動的に悪い　Ⅳ　静的に悪い
エ　Ⅰ　静的に好ましい　Ⅱ　動的に悪い　Ⅲ　動的に悪い　Ⅳ　静的に好ましい

問二　――線部①「図」とありますが、図の[A]～[D]に入る語の組み合わせとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　A　興奮　B　不安　C　冷静　D　無気力
イ　A　不安　B　冷静　C　興奮　D　無気力
ウ　A　興奮　B　冷静　C　無気力　D　不安
エ　A　不安　B　無気力　C　冷静　D　興奮
オ　A　興奮　B　無気力　C　冷静　D　不安

問三 ――線部②「ムラブリ語は『クロル（心）』を用いて感情を表すのだが、そのなかでも『クロル クン（心が上がる）』と『クロル ジュール（心が下がる）』という感情表現がおもしろい」とありますが、筆者はどのような点をおもしろいと感じていますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ムラブリ語には「感情」を表す語がないにも関わらず、語彙と迂言的な表現によって感情表現の細かいニュアンスの違いを表現することができる点。
イ ムラブリ語の迂言的な感情表現は、ポジティブな感情もネガティブな感情も表さないので、もっとも普遍的な概念メタファーの例外となり、珍しい点。
ウ ムラブリ語には「感情」を表す語がなく、「心が上がる」「心が下がる」という語で感情を表現することが、世界の言語からすると例外的な点。
エ ムラブリ語の「心が上がる」は悪い感情を表すので、「上がる」ことは「よい」ことと考える世界の言語の普遍的な特徴にあてはまらない点。

問四 [V] に入る言葉として最もふさわしいものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 胸あたりの前で手を上下に
イ 胸あたりの前で手を左右に
ウ 顔あたりの前で手を上下に
エ 顔あたりの前で手を左右に

問五　――線部③「そう考えると」とありますが、このように筆者がムラブリの感性を考えることができるのはなぜですか。次の［　　］に入る言葉を、「**『上』は悪く、『下』は良い？**」の文中から二十字以上、三十五字以内で探し、初めと終わりの五字を答えなさい。

筆者は、［　　］ができるから。

問六　――線部④「人類史的にはごくありふれた心の風景なのかもしれない」とありますが、なぜこのように考えられるのですか。「現代人の感性」と「ムラブリの感性」を対比して、百字以上、二百字以内で説明しなさい。

（おわり）

二〇二四年度
湘南白百合学園中学校入学試験

国語解答用紙

受験番号　番

氏名

得点 ※

※には何も書かないこと

一

問一
①
②
③
④
⑤
⑥ う
⑦ く
⑧
⑨
⑩ る

問二
①
②
③
④
⑤
⑥

問三
①
②
③
④

二

問一
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ

問二

問三

問四

問五

問六

40

問七

70

※

三

問一

問二

問三

問四

問五
初め
〜
終わり

問六

100

200

※

※